福井大学リポジトリ
UNIVERSITY OF FUKUI REPOSITORY

<研究報告>福井県三国町旧市街地の町家と町並みに関する調査研究：下町の景観

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2007-06-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高井, 翼, 藤田, 勝也, 岩瀬, 純平, TAKAI, Tsubasa, FUJITA, Masaya, IWASE, Junpei メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10098/825

福井大学 工学部 研究報告 第51巻 第2号 2003年9月
Mem. Fac. Eng. Fukui Univ., Vol. 51, No. 2 (September 2003)

福井県三国町旧市街地の町家と町並みに関する調査研究
—下町の景観—

高井 翼* 藤田 勝也** 岩瀬 純平*

Research on the Row of Town Houses in the Fukui Mikuni Old City Area
—A Scene of Shitamachi—

Tsubasa TAKAI*, Masaya FUJITA** and Junpei IWASE*

(Received August 20, 2003)

The research purpose is performing present condition grasp of rows of houses and a town house by "row of houses investigation" in the Mikuni old city area. As the research method, the result of row of houses investigation is summarized as data, it divides into the area like Mikuni old city area -(Shitamachi, Uwashinmachi, Takidani) - (Uramati, Omotemati), and present condition grasp is performed. Moreover, the data of row of houses investigation of the Mikuni old city area in 1980 by Mr. Tamai is used, and the change for these about 20 years, especially the change about a town house are considered. In addition, the definition of the town house in this investigation shall have touched the adjoining house and eaves, and should retreat from the road of the front of a building, but shall have left the front design well.

Key Words : Town House, Roof Form Type, Kagura-Date, Front Design of the House

1. 研究目的と研究方法

本研究の目的は，2002年9～10月に行った福井県三国町旧市街地の町並み景観調査1)によって明らかになった，町並み景観の現状に関する調査結果の概要の報告と分析にある．調査範囲は三国町旧市街地の，おもに滝谷・下町・上新町の3地域であり，本稿ではとくに九頭竜川沿いに展開する下町を中心に検討する．具体的には下町の地域性の抽出ならびに，1980年に行われた調査2)との比較に基づく，ここ約20年間における町並み，とくに町家景観変容の実態解明である．これをもって，今後の町並み整備の基礎資料の一端として役立てたい．

* 大学院工学研究科建築建設工学専攻
** 建築建設工学科
* Architecture and Civil Engineering Course, Graduate School of Engineering
** Dept. of Architecture and Civil Engineering

2. 旧三国湊ならびに下町の概要[3)]

越前三国湊は,福井平野を南から北に流れる九頭竜川が日本海に注ぐ河口近くの右岸に位置する．支流竹田川がこの三国湊の位置で九頭竜川と合流していて，三国湊の川上側は竹田川，川下側は九頭竜川に面することになる．

下町は，森町・岩崎町から松ヶ下町に至る地域が最も古く中世に遡り，その後正保2年（1645）頃川下の元新あたりに人家が建ち始め，やがて下新町が分かれる．ほぼ同時期の慶安元年（1648）頃からさらに川下側の木場町にも人家が建ちならぶが，下新との間の低地に盛土をして今町が出来るのは享保2年（1717）以降のことである．一方、川上側の四日市町は天和3年（1683）に成立している．

森町から松ヶ下町に至る下町通りは自然地形によってかなり曲がりくねっており，また町境の横町の

位置で食い違いがあることが多い．それに対して元新・下新町は，ほとんどの道路が台地上で高低差のかなりある地形にもかかわらず直線状で横町通りとも直交している．この違いは町割の成立時期と成立過程の相違を示す．すなわち，前者の少なくとも17世紀前半にまで遡る自然発生的な町割に対し，後者が17世紀半ば以降の計画的な町割ということである．なお，下町には数多くの寺社門前町があるが，それら寺院・神社の成立年代には中世に遡るものもあって，中世末期にはかなり開けていたと考えられる（表1・図1）．

下町には，酒・油・米などの各種問屋など三国湊の町役人を務めるような大商人の住居が並んでいた．また下町・上新町にはともに，表町・裏町があって，近世末下町の表町は14町、裏町は16町という．いわゆる有力者，大商人は表町，対するに雇・賃持・車力などの単純肉体労働に従事する人々が裏町に居住したらしい．

表1　下町（表町）の成立

	江戸初期までに成立	江戸中期～江戸後期	明治以降	明治7年
四日市町		1683年天和3年		桜谷町
森町	○			
岩崎町	○			岩崎町
上ミ町	○			玉井町①
中町	○		明治元年に合併し中元町に	中元町②
元町	○			
大門町	○			大門町③
上西町	○			上西町④
下西町	○			下西町⑤
松ケ下町	○			松ケ下町⑥
元新町		1645年正保2年		元新町⑦
末場町		1648年慶安1年		平末町⑧
今町		1716年享保2年		今新町⑨
下新町		1699～1735 ⑩		

①安養寺町（下町の裏町）と合併　②御所垣内町（下町の裏町）と合併
③観音町（上新町）と合併　④梅原町（上新町）と合併　⑤井田町（下町の裏町）と合併
⑥石切場町（下町の裏町）と上加町（上新町）と合併
⑦下加町（上新町）と緑町（上新町）と合併
⑧平野町（上新町）と合併　⑨八宝寺町（上新町）と合併　⑩元新町から分化して成立

3.　調査結果からみた下町の特徴

3.1　三国全体からみた下町の特徴

3.1.1　建物全体について

建物形態に注目すると，湊町の象徴である土蔵や，三国祭の山車の格納庫，山車小屋は，圧倒的に下町に多く，下町は今なお三国湊の中心といえる（図2）．しかしその反面，建物構造をみると鉄骨造が多く，また1981年以降の建物も下町に多い（図3）ことから，町並み景観が大きく変化した地域と言える．

3.1.2　町家型住宅について

町家型住宅は下町がもっとも多いとの予想に反して，滝谷が1番多い結果になった（図4）．ただし屋根形状では，三国町の町家型住宅の特徴であるかぐら建て（前下屋・かぐら建てⅠ・Ⅱ）[4]が他地域に比べて多く，主流を占めている．階数や建築年代をみても，下町には多くの古い形式の町家が残っているようである．

3.1.3　町家型住宅の正面意匠について

町家の件数では滝谷が最も多いが，正面意匠に関しては下町がより特徴的である．下町の町家は装飾的で，豪華な造りである．これを明示するのは小屋根の意匠で，下町では，「破風板・破風留め＋絵様刳り形」が多く，「刳り形」が少ない。滝谷は，逆に「絵様刳り形」が少なく，「刳り形」が多い（図6）．また2階窓形式では，鉄格子と無双窓が特徴的である（図7）．この2形式の成立年代は，無双窓が江戸時代，鉄格子が大正期と，大きな差がある．この事実は下町における幅広い成立年代の町家の存在を示唆する．

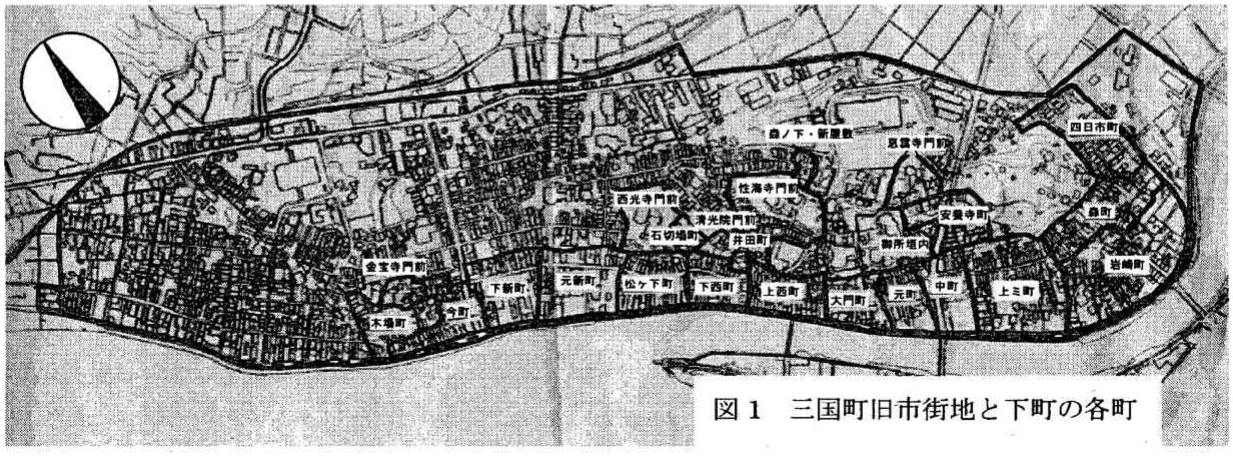

図1　三国町旧市街地と下町の各町

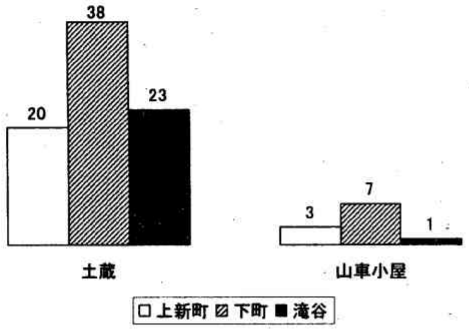

図2　建物形態(戸数)

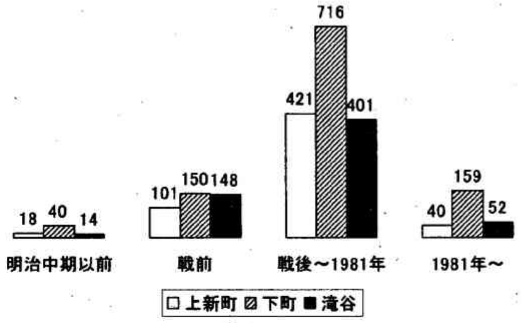

図3　建築年代(戸数)

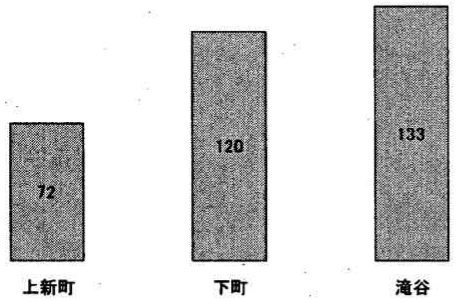

図4　町家型住宅(戸数)

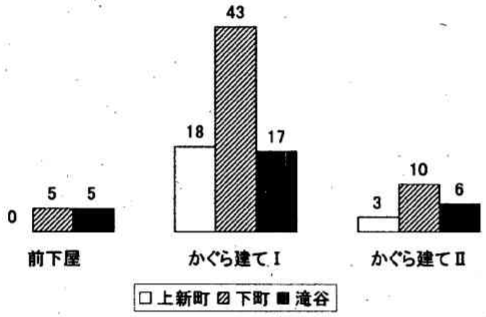

図5　屋根形状(戸数)

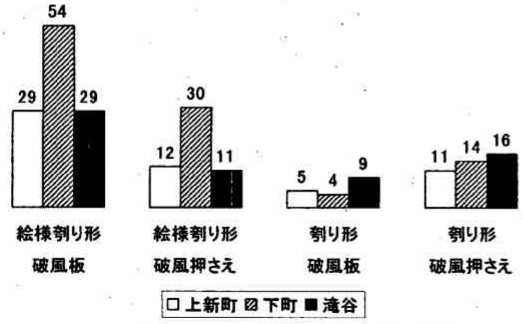

図6　小屋根の意匠(戸数)

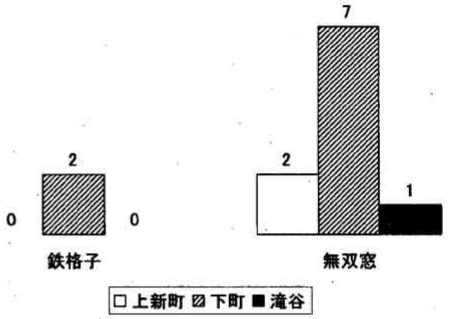

図7　2階窓形式(戸数)

3.2　下町内における各町の特徴

下町内の各町を比較する。とくに町の成立年代に注目して，町家型住宅の動向を検討した．町を成立年代によって江戸初期と江戸中期～後期の2グループに分けた（表1参照）．江戸初期は91棟，江戸中期～後期は20棟と，残存件数に差があるため必ずしも正確ではないが，両者間には相違がみられた．

まず屋根形状に関しては，初期は切妻・平入とかぐら建てⅠが多くを占め、中～後期は均一に在した（図8）．このことから，古くはかぐら建てⅠもしくは切妻・平入が主流であったことが推測される．正面意匠に関して特徴的な事項を挙げると，2階窓形式において，格子は江戸初期に多く，出格子は両者ともほぼ同数である．雨戸・戸袋は中～後期の方が多く残っている（図9）．2階意匠に関しては，「持送り絵様刳り形」が初期にしかなく（図10），袖壁も圧倒的に江戸初期が多い．また小屋根形式に関しては，初期は化粧垂木が多く，中～後期は幕板を用いた家が多い（図11）．

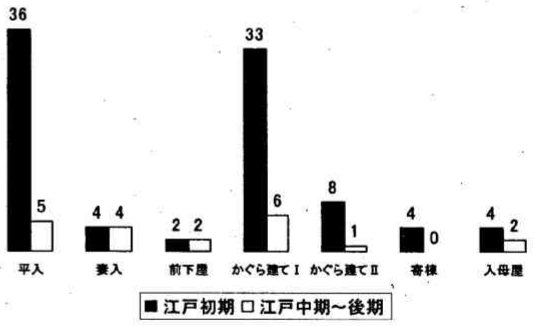

図8　年代別屋根形状(戸数)

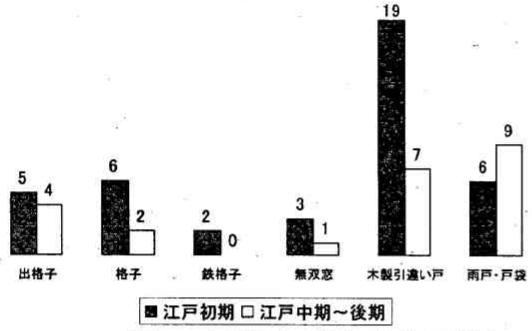

図 9　年代別 2 階窓形式(戸数)

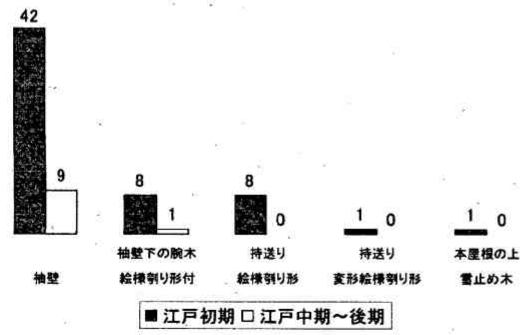

図 10　年代別 2 階意匠(戸数)

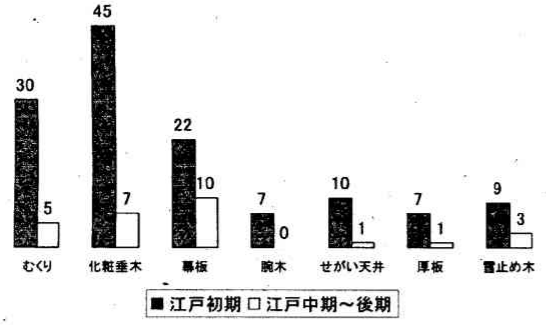

図 11　年代別小屋根形式(戸数)

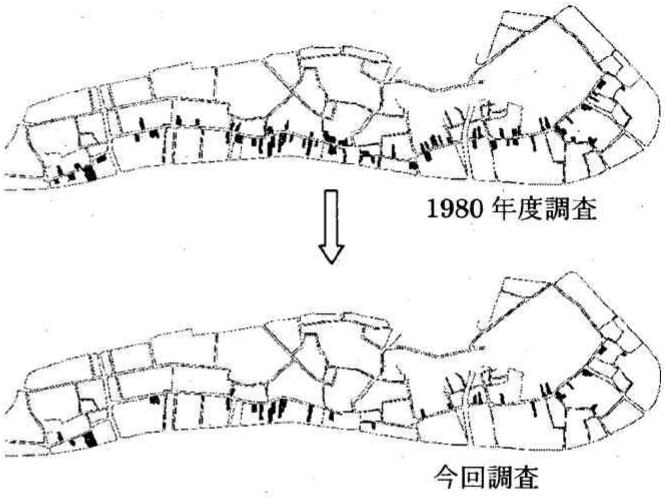

図 12　明治中期以前の町家型住宅の分布

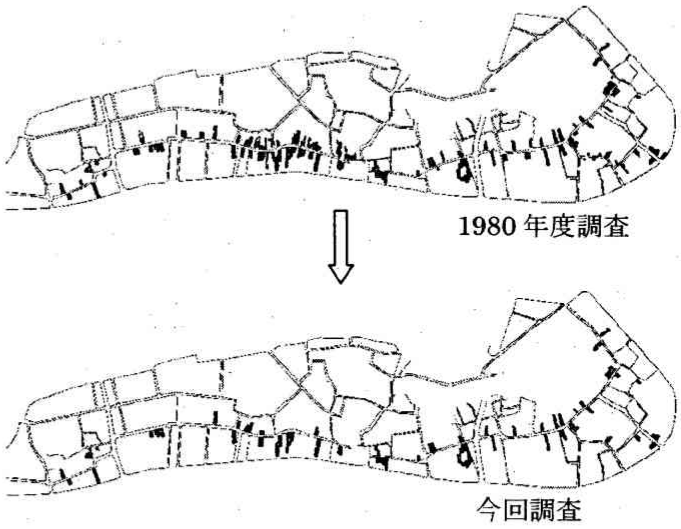

図 13　かぐら建て町家の分布

4. 1980 度調査との比較

1980 年度の調査結果と比較検討した結果，構造と建物用途に関しては，ほぼ同じ傾向であったが，建築年代に関しては，明治中期以前の建物が 1980 年度調査時には 100 件前後あったのに対し，40 件とかなり減少している．また，屋根形状に関しては，前下屋・かぐら建てⅠ・Ⅱの件数が 120 件ほどあったが，今回調査では 60 件と、これまた減少し，分布をみても 1980 年度調査に比べて点在する傾向にあって，地域的特徴の抽出が困難な状況である(図 12・13)．1980 年度調査で実例の挙げられた町家意匠においてとくに変化が著しいのは小屋根形式で，厚板はほぼ半分消滅している．2 階窓形式の細部意匠も消滅しつつある．ただし無双窓のあった建物は，すべてその形式を残している（表 2・3)．

表 2　現存する町家(1980 年調査時)

名前(所在地)	屋根形状	2階窓形式	小屋根形式	2階軒下	袖壁	2階
島田(今町)	妻入	無双窓	厚板			
坂井(今町)	かぐら	格子	厚板垂木付	天井	有	総2階
岸名(下新)	かぐら	無双窓	厚板	天井	無	主屋部のみ
松木(松ヶ下)	かぐら	格子	厚板	腕木	有	総2階
名村(松ヶ下)	かぐら	格子	厚板	天井	有	総2階
佐藤(松ヶ下)	かぐら					
宮本(下西)	かぐら	格子	厚板	登り梁	有	総2階
北野(下西)	かぐら	無双窓	厚板	腕木	無	つし2階
名村(上西)	かぐら	格子	厚板	登り梁	有	総2階
森田(元町)	平入	格子	むくり	天井	有	総2階
名田(下西)	かぐら	格子	厚板	腕木	無	主屋部のみ
浅田(上ミ町)	かぐら	無双窓	厚板	腕木	無	主屋部のみ

表 3　現存する町家(今回調査)

名前(所在地)	屋根形状	2階窓形式	小屋根形式	2階軒下	袖壁	2階
島田(今町)	妻入	無双窓			無	総2階
坂井(今町)	かぐらⅠ	出格子		せがい天井	有	総2階
岸名(下新)	かぐらⅠ	無双窓	厚板	せがい天井	無	つし2階
松木(松ヶ下)	前下屋	格子・木製引き違い窓		腕木	有	総2階
名村(松ヶ下)	かぐらⅠ	格子		せがい天井	有	総2階
佐藤(松ヶ下)	かぐらⅡ	格子		登り梁	有	総2階
宮本(下西)	かぐらⅠ	木製引き違い窓		登り梁	有	総2階
北野(下西)	かぐらⅡ	無双窓	厚板	腕木	無	つし2階
名村(上西)	かぐらⅠ		厚板	登り梁	有	総2階
森田(元町)	かぐらⅠ	格子	むくり	せがい天井	有	総2階
名田(下西)	かぐらⅠ		厚板	腕木	無	つし2階
浅田(上ミ町)	かぐらⅠ	無双窓	厚板	腕木	無	つし2階

5. おわりに

以上の検討から，下町は今なお三国湊の中心地として三国湊繁栄時の景観を残していることがうかがえた．背景としては，町家型住宅が多く残存していることがある．下町の中でも，その特徴をよく残すのは江戸初期以前成立の各町である．しかし，町並み景観に大きく影響する町家型住宅の改修が進んでおり，1980 年度調査との比較では，この約 20 年間で，多くの町家型住宅が無くなっていることが分かった．下町は新旧幅広い建物が混在する地域へ急速に変貌しつつあるというのが実状である．

註

1) 現地調査は福井大学藤田研究室（日本建築史研究室）による．なお本調査は，藤田と（株）サンワコンとの共同研究「福井県三国町旧市街地の町並み景観に関する調査・研究」（平成 14 年度）の一環である．ここでの町屋とは，「隣接する家と軒を接しており，建物前面の道路から後退しておらず，正面の意匠をよく残している建物」と定義した．

2) 1979 年 7 月～81 年 3 月、玉井哲雄氏らによって実施された民家・町並み調査．ただし，玉井氏らの調査は，三国町旧市街地の主要な地域に限る．

3) 参考文献[3][4]を参照．

4) かぐら建てには，前下屋のほかに 2 形式ある．ここに言うかぐら建て I とは，平入部分の棟が妻入主屋部と接しているものを言い，かぐら建て II とは，平入部分の棟が妻入主屋部の手前にあり接していないものを言う（参考文献[1]）．

参考文献

[1]三国町教育委員会編『三国町の民家と町並—三国町民家調査・町並調査報告書』三国町，1983 年．

[2]玉井哲雄「近世地方都市における町並形成—越前三国湊の町家と都市構造—」『建築史学』第 3 号，1984 年．

[3]三国町史編纂委員会編『三国町史』三国町，1964 年．

[4]三国町百年史編集委員会編『三国町百年史』三国町，1989 年．

[5]『三国港分間絵図』（明治 3 年）．

[6]『三国湊軒別図』（明治 5 年）．